

地域まちづくりニュース NO.3

発行日 2021年6月



発行者 羽沢横浜国大駅周辺地域の愛着を育てるサインづくり推進会

常盤台地区と羽沢地区の交流について

羽沢横浜国大駅周辺地域の愛着を育てるサインづくり推進会副会長

羽沢地区社会福祉協議会会长

羽沢南町内会会長

和田 勝巳

羽沢横浜国大駅(以下「羽沢駅」という)開業が具体化する以前は、約3メートルの保土ヶ谷区と神奈川区の区界道路で区切られ、常盤台地区と羽沢地区間の交流は殆どありませんでした。ところが今年度は、横浜国大の学生、常盤台地区と羽沢地区住民、常盤台地域ケアプラザが主体となって、「まちの情報を見る化しよう～常盤台地区・羽沢地区のサインづくり～」をテーマとしたワークショップを3回開催しています。また8月から9月にかけて両地区の各町内会に所在する坂・道に関するアンケート調査を実施しています。

このように、常盤台・羽沢地区間の交流は羽沢駅開業が大きく関連しています。羽沢駅開業の具体化に伴い、周辺地区に対する様々な対応策が行われるようになりました。これらの対応策は行政の枠組みを越えた一体的取組みが必要であり、これらの取組みを通して両地区間の交流が深まっていきました。

この一体的取組みは、これまでに大きく2つの流れがあります。1つは「羽沢地区周辺地区プラン(協議会案)」の策定を通してです。羽沢駅開業に伴い様々な課題を整理・検討するとともに、将来の目標である「羽沢駅周辺地区まちづくりプラン(協議会案)」を策定するため、平成20年10月「羽沢駅周辺地区まちづくり協議会」が発足しました。常盤台・羽沢地区の自治連合会長・単位町内会長や農業従事者の代表などがこの協議会の構成メンバーとなっており、これらの活動を通して両地区間の交流が深まっていきました。

もう1つは、「羽沢横浜国大駅周辺のバリアフリー基本構想」の策定を通しての流れです。羽沢駅周辺道路は狭隘で、急勾配な坂道が多く、高齢者や身体の不自由な方にとって極めて過酷な環境にあります。そのため平成30年度ワークショップのテーマとして「羽沢横浜国大駅周辺のバリアフリー基本構想づくり」の策定に取組むことになりました。羽沢駅が所在している羽沢地区もこのワークショップに加わることになりました。ワークショップを通して両地区の交流が更に深まりました。

3年後には、羽沢駅前にタワーマンションが建ち、357戸の住宅が整備されます。今後これらの新住民と周辺地区との交流が盛んになり、地域全体が一体となって新しい町づくりに取組んでいくことが重要と考えます。